



環境公共 通信



第35号 平成29年9月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

「環境公共推進プロジェクト」を開催

青森県では、平成20年度から、地域住民との協働により、農業と環境の共存を図りながら農林水産業の基盤づくりを進める「環境公共」に取り組んでおり、各地域において、ビオトープづくりや水路沿いの植樹活動、子どもたちを対象にした環境学習（田植え、稲刈り）や稚魚放流など様々な取組が行われています。今年度は、農山漁村でのさまざまな体験を通して、青森の豊かな農林水産物を育む生産基盤が地域の人の手によって守られ、次の世代に引き継がれていることへの理解を深めてもらうため、「環境公共」に関する体験イベント「環境公共推進プロジェクト」を今年度は計5回開催予定ですが、そのうち実施済みの2回を紹介します。

「山川海をつなぐ水循環体験学習」

平成29年7月2日（日）、八戸市において、「山川海をつなぐ水循環体験学習」を開催し、八戸市内の小学生等19名とその保護者14名が参加しました。

世増ダムや国営事業で造成した畑では、ダムの役割や配水の仕方、畑地かんがいの効果などについて説明し、自走式散水機が畝の間を移動しながら散水する様子も見学しました。その他、ウニの殻むき体験や森林学習、間伐材を使った木工細工体験、環境公共学習を行い、山から川、川から海へとつながる健全な水循環を守ることの大切さを伝えました。



自走式散水機の実演

「農業と漁業の資源循環体験学習」



トマトの収穫体験

平成29年7月23日（日）、青森市と蓬田村において、「農業と漁業の資源循環体験学習」を開催し、青森市内の小学生等18名とその保護者17名が参加しました。

暗渠排水が設置された畑では、暗渠排水の仕組みや効果、施工方法、疎水材にホタテの貝殻を利用していることなどを説明しました。その他、トマトの収穫体験やホタテの殻むき体験、環境公共学習、蓬田村が取り組んでいるホタテガイ養殖残渣堆肥を活用した玉ねぎの産地づくりを紹介し、農業と漁業の資源が循環されることで、

本県の安全・安心で豊かな農林水産物が育まれていることを学んでいただきました。

今回の学習会を通じて、「環境公共」への理解が一層深まり、県内での「環境公共」の取組が活性化されることを期待しています。

■「環境公共」事例紹介

上小国地区（外ヶ浜町） ～上小国地区における環境公共の取組～

1 地区の概要

上小国地区では、作業の効率化と生産性の向上を図り、地域全体で耕作放棄地を解消するため、平成20年度から24年度にかけてほ場整備事業を実施しました。

事業の実施にあたっては、水田整備で失われるおそれのあった自然環境を保全するため、平成20年度に農業者や町内会などが中心となり「上小国地区環境公共推進協議会」を設立し、利用されていなかったため池をビオトープ池として整備し、工事着工前にドジョウ、タニシ、ウグイ、ヤゴなどの生き物をビオトープ池に移動し保護しました。また、平成23年度には地元産の間伐材を活用して、架橋やウッドチップロードも設置しました。さらに、協議会では、毎年地元の子供たちを対象に生き物観察会を行っており、水環境を守る大切さを教えています。



ビオトープ池 イメージ図



整備されたビオトープ池 (H23)



過去の生き物観察会の様子 (H24)

2 活動内容

近年、ビオトープ池では経年劣化による木橋の一部損壊や畦畔部分の浸食がみられ、安全に通行することが難しくなり、ビオトープ池としての機能が喪失する可能性があります。そこで、補修活動が計画され、平成29年9月3日（日）に浸食を防ぐための護岸作りが行われました。本活動は推進協議会員10名で、「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を活用して行われました。



経年劣化したビオトープ池



協議会による擁壁作りの様子



擁壁が整備されたビオトープ池

3 今後について

ビオトープ池は上下に2つあり、今年度は下部分の護岸作りをしました。来年度は上部分の護岸作りを行う予定です。

2つのビオトープ池の補修活動は今後数年間かけて行われ、護岸作りの他に木橋の補修、ウッドチップの補填等を行いつつ、子供たちとの生き物観察会も継続して取り組んでいくこととしています。